

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

P2 特集

平成25年度 兵庫県社協の主要事業

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

地元の人たちとつくる身近な居場所
~「ひだまりサロン」の取り組みから~

P8 あなたのまちの社協ナビ

豊岡市社会福祉協議会

P9 地域を駆ける! ワーカー物語

「ほっとかない」地域づくりを目指して!
尼崎市社会福祉協議会 杉本 善希^{よしき}さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

4
No.746



4月2~8日は
「発達障害啓発
週間」だよ!



平成25年度 兵庫県社協の主要事業

3月28日、第229回理事会・第176回評議員会が開催され、本会の平成25年度事業計画・予算案が承認された。平成25年度は、「兵庫県社協2015年計画」の3年目となる中間年度として、同計画の各アクションプランに基づいた事業のさらなる展開を図ることとなる。

今号では、国・県施策の動向や、3月上旬に開催した三部会の内容とあわせて、全県スローガン「認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉」の実現を目指して本会が平成25年度に展開する主な事業を紹介する。



兵庫県社会福祉協議会 平成25年度の主な新規・拡充事業

Action①
市町域での地域福祉の推進力を高める支援を強化します
市町社協が、多様な主体と協働した福祉コミュニティづくりが行えるよう支援します。また、全県的な地域福祉課題についての研究・協議や政策提言を行い、市町域での地域福祉の推進力を高める支援を行います。

- 小地域福祉活動の全県的な推進【拡充】
- 地域ネットワークづくり研究事業【新規】
- 市町社協の組織基盤強化に向けた支援【拡充】

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの定着に向けた取り組み
●「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進
●「地域フォーラム」の開催支援【新規】

Action②
多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめます
多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめるため、多様な主体への支援、地域のネットワークを活用した活動への支援、普及等、県域の立場から取り組みます。

- ボランティアグループ・NPO等に対する資金支援【拡充】
- 企業とNPO等の社会貢献活動連携サポート事業【新規】
- 近畿ブロック、県内福祉関係者との協働による災害時の支援ネットワークづくり【新規】

Action③
質の高い福祉サービスの充実・開発を支援します
福祉人材の育成を充実させるとともに、福祉従事者がいきいきと働くことができる職場づくりの支援を一層すすめます。また、質の高いサービスを安定的・継続的に提供できる福祉事業者への経営支援を強化します。

- 福祉施設・事業所人材採用力向上研修事業【新規】
- 社会福祉専門研修事業等の実施【拡充】
- 福祉施設と地域との連携支援【拡充】

Action④
「暮らしのセーフティネット」の充実・強化を支援します
関係機関による支援と住民による日常的な見守りや支え合いなどが有機的に連携して、「見守り・支援・連携」が一体となった「暮らしのセーフティネット」の取り組みの充実・強化を支援します。

- 総合相談・生活支援の強化に向けた取り組み【新規】
- 市民後見体制整備事業の実施【新規】
- 若年性認知症支援体制整備推進事業の実施【新規】

県社協機能の充実
①総合的企画・提言機能の充実
②経営基盤強化への取り組み

東日本大震災の被災地の復興ステージに応じた適時・適切な支援
被災地の社協、福祉関係者、行政、復興支援活動者などと連携・協働し、復興のステージに応じて現地で必要とされる支援活動を進めるとともに、県内避難者への支援を展開します。

※平成25年度事業計画の詳細は、追って県社協ホームページにアップする予定です。

会全県キャンペーンは、平成25年度も引き続き、「地縁」「血縁」「社縁」やつながりの大切さを訴え、地域での見守り、支え合いについて啓発する取り組みとしてその定着を目指す。

平成25年度は特に、全県イベントや地域フォーラムの開催など、これまで以上に積極的な活動を展開していく予定だ。

Action①
市町域での地域福祉の推進力を高める支援を強化します

小地域福祉活動の全県的な推進
東日本大震災でも確認された人と人とのつながりの大切さ。本会では、つながりをつくる「見守り」活動の進め方について、昨年度開催した「小地域福祉活動実践研究会」で議論し、その成果をまとめた。今年度は、「地域フォーラム」や各種研修でその内容の普及を図る。

地域ネットワークづくり研究事業
複合的な課題や制度の狭間への課題への対応が大きな課題となっている。そのため本会では、生活課題やニーズの早期発見・早期対応に向けた総合相談や地域生活支援の体制づ



平成25年度に予定される国・県の動き

- 【4月から施行される法律等】
- 障害者総合支援法 ●障害者法定雇用率引き上げ ●障害者優先調達推進法
 - 社会福祉法人の指導監督等の権限が県から市へ移譲 など
- 【審議会等の動き】
- 社会保障制度改革国民会議(設置期限の8月までに報告書をまとめる予定)
 - 社会保障審議会介護保険部会(平成26年に国会提出予定の介護保険法改正法案を議論)
 - 「生活困窮者の自立の支援に関する法律案」「障害者差別禁止法案」の検討
 - 「ひょうご障害者福祉プラン」「兵庫県障害福祉計画」の策定 など

地域福祉を 取り巻く情勢

長引く経済不況の影響により、生活困窮者の増加や生活課題の深刻化が依然として大きな社会問題となっている。

国では、「社会保障と税の一体改革」の議論を受け、生活扶助基準の

引き下げなど、生活困窮者支援の抜本的な見直しや、各福祉制度の改正・改革が進められており、社会保障制度改革国民会議において社会保障の将来像についての議論がなされている。

兵庫県でも、「21世紀兵庫長期ビジョン」に基づき、「創造と共生の舞台・兵庫」の実現に向けた各種施策(5ページ参照)が展開されようとしている。

兵庫県社協では、以上のような情勢を注視しつつ、行政施策との役割分担を図りながら、市町社協をはじめとしたさまざまな機関、団体、関係者と連携し、「県社協2015年計画」に基づき、地域福祉を全県的に推進する組織としての取り組みを推進していく予定だ。

平成25年度県社協の 主な事業

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進

平成24年度に推進協議会が発足して開始した「ストップ・ザ・無縁社



くりについて調査・研究を行い、専門職と地域活動者との連携による地域のネットワークづくりを推進するための実践事例集を作成する。

市町社協の組織基盤強化に向けた支援
前記のような取り組みを推進するため、県内市町社協間の協議の場を再編し、市町社協活動の推進強化に向けた仕組みづくりを進める。

具体的には、社協を取り巻く情勢および当面の課題等について社協職員が横断的に協議するため、ネットワーク会議としての「地域福祉を推進するための担当者会議」を開催する。また、「社協マネジメント塾」を開催して中間マネジャーの育成を行うほか、市町社協活動推進協議会のブロック域での活動を支援し、人材育成の仕組みづくりを進める。



見守り活動を支援する方法を詳しく解説!(本会ホームページからダウンロード可能)



Action 2

多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめます

ボランティアグループ・NPO等に対する支援

地域づくり活動情報システムの運営やブログ・ツイッターなどの活用を通じて、県民ボランティア活動の真実的な支援を行う。また、ひょうごボランティア基金の果実収入および寄付金を基に、ボランティアグループやNPO法人等に対する資金支援を拡充して行う。企業とNPO等の社会貢献活動連携サポート事業 企業による社会貢献活動が広まる

地域福祉推進部会(3月7日開催)で出された意見から

- 近所付き合いの煩わしさからマンションに入居する人もいるなど、自ら地域とのつながりを切ろうとする風潮がある。
● 限界集落では地域自体が持たなくなっている。また、結婚しない人がいるので、縁結びも大切。
● インフォーマルな活動と制度サービスが合わさって地域の要援護者を支えていくシステムが必要。そのための社協の役割は大きい。

権利擁護部会(3月7日開催)で出された意見から

- 今後の政策提言には、数の少ない当事者の声も盛り込んでいく必要がある。
● 障害者雇用については、障害者が能力を発揮することで企業にも大きなメリットがあるというシステムを作れば進むと思う。
● 災害時の要援護者支援は、民生委員と当事者組織が連携してネットワークを作っていくことで地域づくりにもつながる。

Action 4 暮らしのセーフティネットの充実強化を支援します

総合相談・生活支援の強化に向けた取り組み

平成24年度に全社協が策定した「社協生活支援活動強化方針」を受けて、県内でも事務局局長会議などの場を通じて、生活課題の解決や孤立防止に向けた取り組みの必要性が共有された。今後、総合相談生活支援の体制づくりについて、市町社協、関係機関・団体と検討・協議を行っていく。

中で、社会貢献活動に意欲のある企業と協働を希望するNPO等との出会いの場づくり(フォーラムの開催等)や、啓発リーフレットの作成等を通じて、企業とNPO等との連携をサポートする。

近畿ブロック、県内福祉関係者との協働事業の推進

東日本大震災では市町域・県域を超えた支援体制の必要性が明らかになった。この教訓を踏まえ、近畿ブロック社協の相互支援協定に基づき職員育成などを進めるとともに、災害時要援護者の救援に向けた、福祉介護分野の広域的なネットワークづくりを進める。



東日本大震災の教訓を生かして

市民後見人養成研修事業の実施

本会では、平成22～23年度に市民後見人養成研修事業を実施してきたが、市町域における支援体制の整備が課題であった。このため、兵庫県と連携して、市民後見推進専門員の配置や市民後見推進会議などの開催を通じて、市町域における市民後見人の養成及び支援体制の整備を図る。

若年性認知症支援体制整備推進事業の実施

若年(65歳未満)で発症する認知症の人の生活支援にあたっては、医療・介護・就労等の観点から総合的に対応することが望ましいが、社



平成23年度に本会で開催した市民後見人養成研修事業の様子

Action 3

質の高い福祉サービスの充実、開発を支援します

福祉施設・事業所人材採用力向上研修事業

本会では、福祉人材センターにおいて福祉人材の確保対策を総合的にしているが、近年、福祉施設事業所における採用スキルの強化が課題として見られるようになった。そこで、人事・採用担当者を対象として、学生や一般求職者の採用を確実にできるスキルと知識の習得に向けた研修を新たに実施する予定だ。社会福祉専門研修事業等の実施 兵庫県社会福祉研修所において、



福祉人材の確保は現場の大きな悩み

福祉事業推進部会(3月11日開催)で出された意見から

- 事業計画の通りに事業が実施されたか、どんな課題があるかも含めて評価を行うことが大切である。
● 福祉従事者への研修は、施設種別協議会の研修とうまく組み合わせると、より充実すると思う。
● 市町域で施設と行政が福祉避難所の協定を結ぶところが増えてきたが、実際の災害発生時にどう具体的に行動するのかの議論が必要である。

新たに障害者福祉施設や老人福祉施設のリーダーを対象としたセミナーを実施するなど、社会福祉従事者の育成を進める。また、福祉職員の職場研修を支援するアドバイザーを派遣し、研修の仕組みづくりを支援するとともに、〇J T担当者などを対象とした研修を充実する。福祉施設と地域との連携支援 社会福祉法人が施設の機能や専門性を生かし、関係者と協働して住民福祉活動を進められるよう、事例収集や県社会福祉施設経営者協議会と市町社協等との意見交換会などを実施する。

会的な取り組みが十分に進んでいない現状にある。そこで本会では、兵庫県と協力して、「若年性認知症生活支援相談センター」を設置し、関係機関との連携による個別支援等に取り組んでいく。

東日本大震災の被災地の復興ステージに応じた適時・適切な支援

被災地の一日も早い復興に向けて、県内社会福祉関係者とともに、

兵庫県の主な平成25年度新規事業
兵庫県ではこのたび、「健康で安心な生活の実現」などを柱とする平成25年度の重点事業を発表した。以下、地域福祉に関する新規事業を抜粋して紹介する。
● 災害時要援護者支援対策の推進(自主防災組織、介護事業者等の連携を促進)
● 地域サポート型特養創設事業(LSA(生活援助員)を配置して、地域住民を対象に見守り等を行う特養を創設)
● 地域の看取りの促進(ホームホスピスを普及させるとともに、特養等で終末期ケアを行える人材を育成)
● 福祉人材の確保対策(高齢者が特養等で就労するための介護就労コーディネーターを設置)
● 認知症「早めのきづき」応援事業の推進(認知症の予防、早期発見を図るために、相談コールセンターなどを設置)
● 意思疎通支援人材の養成(地域生活支援事業の必須事業となる意思疎通支援事業の実施に必要な手話通訳講師を養成)
● 保育士・保育所支援センター開設等事業(潜在保育士の就職支援等を行う保育士・保育所支援センターを設置)
● 3歳児保育充実支援事業(3歳児担当保育士の新たな配置に要する経費を補助)
● 若年無業者試行的就労支援事業(ニート等の若年無業者の能力に応じた試行的就労の場を提供し、フォローアップを実施)
● 交流促進・自立支援事業(小規模集落等が企画・提案する取り組みに自由度の高い交付を行い、地域の自立を支援)
※平成25年度当初予算(案)の内容は、兵庫県ホームページから閲覧可能。http://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/g_kaiken20130212.html



大きなお屋敷の客間で、たくさんの本に囲まれて、地域の人たちがゆったり本を読んだり、お茶を飲んだり…。身近なところに、誰でも利用できる、そんな素敵なサロンがあったらいいよね。今月は、ボランティアや地元の人たちが一緒になって運営している地域の居場所「ひだまりサロン」(姫路市)を紹介するね。



みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

日頃訪れる人は、主に近所の高齢者で、男性が約3割を占める。夏休みには近所の子どもが多数集まる。多様な人が集まりやすい理由について、「図書コーナーがあるから」と語るのは、ボランティアグループのメンバーで、「ひだまりの家」副理事長の矢野比登美さん。サロンには約1,000冊の蔵書があり、絵本等の児童書も多数揃っている。「最初は本を借りに来るだけの方もいるが、本の話題から始まり、だんだん話が弾み、サロンに馴

多様な人が訪れる鍵は図書コーナー

住宅街の客間で、近所の人たちが、本を読んだり、お茶を飲みながら談笑している。姫路市にある「ひだまりサロン」の風景だ。特にプログラムはなく、誰でも利用でき、自由に過ごせる。このサロンは、平成24年4月、NPO法人「ひだまりの家」が同じ屋敷でデイサービスをオープンした際、ふすまを隔てた客間に誕生した。運営は「ひだまりの家」から委託を受けたボランティアグループが行っている。

地元の人たちとつくる身近な居場所

～「ひだまりサロン」の取り組みから～

「ひだまりの家」では、開所前に説明会を重ね、地元住民の理解を求めたところ、今では、毎月5～10人程度の地元住民のボランティアが活動している。

また、サロンの運営のために、福祉・医療等の専門職に加え、老人会・民生委員等で構成される運営委員会が組織されており、地元住民が参加できる仕組みとなっている。

「近所の顔なじみの方がいることで、訪れる方が安心して利用できる。来られる方たちの声に耳を傾け、地元の人たちとともにサロンをつくり

地元住民とともにサロンをつくる

染んでいる」という。



絵本等も多数!

サロンの壁面にはずらりと書籍が並ぶ。

訪れる人が元気になる居場所を

たい」と矢野さんは話す。

「ひだまりの家」のメンバーがサロンを立ち上げたのは、介護保険制度だけでは本人が抱える生きづらさに十分寄り添えないという思いからだという。「サロンは家庭にはなれないけど、人との交流を通じて元気になり、自分の問題と向き合うきっかけになればと思う。そして、身近なところにサロンが増えることを願っている」と語る矢野さん。今後の取り組みに注目したい。

取材を終えて

サロンで思い思いに過ごす人たちに、矢野さんたちは、さりげなく声をかけ、訪れた人同士の橋渡しをされていました。サロンのつながりが日頃の支え合いにつながればという気持ちが伝わってきました。

「ひだまりサロン」(毎週火・金10時～16時)
姫路市広畑区小坂314
☎079-280-2239
<http://hidamarino-ie.sakura.ne.jp/>

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

メッセージ

「組縁」を育て、無縁化ストッパーに

戦後のベビーブーム下に生まれ、周囲には同年代の子どもたちが溢れていた。中学生になると教室は机で一杯となり、先生が生徒の勉強ぶりを観察して回るのも窮屈そうだった。教室が不足し、運動場に仮設したプレハブ教室で授業を受ける生徒もいた。アメリカ製ホームドラマで、同年代の子どもが個室に寝起きし、近隣に口さがない血縁者がいないという状況は、うらやましい限りだった。団塊の世代は群れたがる、との定説とは逆に、個人化を希求する心理も強くもっていた。重いもの、煩わしいものを脱ぎ捨て、身軽でドライなライフスタイルに憧れた。

目的は達成された。そして私たちはいま、「無縁社会」という重くて寒々しい言葉と向き合わなくてはならない時代を生きている。どこかで道を間違えたことは確かだが、その詮索よりも今はともかく、夜明けを待

つ遭難者の群れのように、互いに温め合って頑張りた

い。私は労働運動に携わっており、現役就労年齢の人々が主な構成員だ。私を含めほとんどが、職場・家庭といった枠の中で生きている。枠から枠へ電車移動する生活で、無縁を実感することなどほとんどない。

だが、その縁の枠は、それほど強固なものだろうか。地縁・血縁・社縁に加え、組縁を築き育て、仲間たちの無縁化を防ぎ、ひいては社会の無縁化のストッパーになりたいと考えている。

死は均一な結末だが、そこに至る道筋には厳然たる差異が存在する。尊厳ある生を。



日本労働組合総連合会兵庫県連合会
会長 森本 洋平さん

TOPICS

三部会でキャンペーンについて議論

特集でもお伝えした通り、3月上旬に地域福祉推進部会、権利擁護部会、福祉事業推進部会が開催され、本キャンペーンについての議論も行われました。部会員から出された主な意見は下記の通りです。

- キャンペーンの結果は目に見えにくい。具体的にどう浸透したのかが分かる指標があると良い。
- これまでにも地域では見守り推進員や世帯を訪問する相談員が配置されるなどの取り組みが行われている。それらの取り組みもこのキャンペーンの中で位置付けてはどうか。
- キャンペーンのマグネットステッカーを宅急便やタクシーなどに貼ってもらうことはできないか。
- このキャンペーンのように住民の意識を変えていくには、地域の状況について住民同士が膝を突き合わせて話し合うことが重要である。

キャンペーンの推進団体が増えました!

このたび新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体は計197団体(3月5日現在)となりました!

新たに参画した団体(順不同)

全国共済農業協同組合連合会兵庫県本部、NPO法人ニューいぶき、宝塚医療生活協同組合

全県キャンペーンについての冊子を発行!

平成24年度に本紙で「ストップ・ザ・無縁社会」と題して連載した特集を、このたび一冊にまとめました。デザインは、「ひょうごの福祉」の制作業者である(株)イディーにご協力いただきました。今後順次、推進団体等にお送りさせていただきますので、ぜひご活用ください!



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

社協での最初の担当はホームヘルプサービスのコーディネーターでした。ここではサービスを利用したい人と、活動をしたい人の思いをつなぎあわせることを学びました。その

印象に残るエピソードは？

学生時代、実習先の社協で紹介された地域のサロンでのこと。そこには、医療や介護など専門的なケアが必要な方がいたのですが、周囲のボランティアの手助けもあり、元気にサロンに参加されていました。そのボランティアとの関わりを手く引き出していたのが社協ワーカーでした。地域住民同士の支え合いを支える、まさに「黒子」として活躍している姿を見て、自分も住民主体の地域福祉活動を支えるワーカーになりたいと強く思いました。

地域を駆ける！
ワーカー物語

あなたの原点は？

「ほっとかない」
地域づくりを目指して！！

後、支部^{※1}担当になり地域の組織や役員と関わる中で、さまざまな組織の働きと役割を学びました。昨年度より地域福祉活動専門員^{※2}となり、これまでの経験を生かして地域に出ていき、そこに集まる皆さんと直接関わる楽しさを感じています。ある時、地域の方から次の言葉を聞きました。「自治会の加入者が減ってきている。今までみたいに自治会活動だけするんじゃないかと、もともと住民同士の交流につながる何かがあるやうか」。そこで、幅広い世代が集える活動を地域の方と一緒に考えました。連協を中心に呼びかけをした結果、今まで別々に活動していた老人クラブ、子ども会、民生委員児童委員と協力してグラウンドゴルフ大会を開催できました。参加者からは「こういう場で知り合うことが、気にかける関係づくりになる」といった意見があり、自治会活動から地域福祉活動につながる、関係づくりのお手伝いのできたのかなと思えました。

あなたのまちの社協ナビ

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介します。

活動を
もっと詳しく
知りたい方は

豊岡市社会福祉協議会
☎0796-43-1333

とよおかのふくし 検索



子どもから大人までみんなが主役「わがまち探検隊」!

楽しみ 学びながらの顔の見える関係づくり



左の写真は、豊岡市社協が進めている「わがまち探検隊」の様子である。この活動は、子どもたちを中心に地域内の住民とともに、まちを探検しながら、防災や歴史について楽しみながら学び、地域への関心を高めるとともに、普段からの支え合える関係づくりを目的として始めたものだ。

準備段階から区役員、老人会、子ども会、消防団等の多くの住民が主役となって、この活動に関わってきた。生き生きと子どもたちに地域の話をしたりと、多世代の交流が広がり、顔見知りが増えるなど、今後の小地域福祉活動に向けた取り組みのきっかけとなっている。

活動の中で

まちを探検しながら、子どもたちは消防団に消火栓の使い方を教えてもらったり、老人会から昔の言い伝えを聞いたりして、興味津々。「いつも通ってる道やのに知らなかったなあ」など熱心に話を聞いている。



初めて!
楽しい!

探検後は、撮った写真や子どもたちによるコメントを入れた手作りマップを作成し、その日のうちに参加者みんなで振り返る。

参加した親からは「今まで近所であまり顔を合わせることのなかった人たちと一緒に探検し、地域内で会うと挨拶するようになった。この活動をきっかけにつながりができる」との声もある。



写真も
マップに
張ろう!

活動のポイント 子どもから参加でき、実際にまちを歩きながら地域内のつながりができる!

取材を終えて

探検隊を楽しみにしているのは、子どもたちだけではなく、大人も一緒に企画から参加することで、ワクワクした手作りの取り組みとなっています。この活動を通じて、困ったときには「お互いさま」の助け合える地域づくりが進められています。住民みんなが主役のまちづくりの取り組みはこれからも続きます!

理事長から

豊岡市においても少子高齢化、核家族化が一段と進行し、地域の住民同士のつながりが希薄化するなど、地域福祉を取り巻く環境は、日々大きく変化しております。このような状況の中、「一人ひとりがつながり 支え合う 安心な地域づくり」の実現に向けて、この春より4カ年計画で第2次地域福祉推進計画を策定しました。「わがまち探検隊」も第2次地域福祉推進計画の取り組みの1つであり、多くの住民が参加し、つながりを構築していくものであります。これからも地域住民とともに気づき合い、学び合い、力を出し合いながら地域福祉の向上に努めていきます。



豊岡市社会福祉協議会 理事長 松島 一夫

大切にしていることとは、

「社協は、ほっときません」
力を入りたい活動は？
現在、連協単位に高齢者見守り事業を進めています。交流活動をきっかけに住民同士のつながりを意識している地域へ活動を働きかけ、活動グループである「地区見守り安心委員会」を立ち上げています。活動が活発化してくると、活動を通して「〇〇さん家のおばあちゃん、最近様子が変」といった個別の課題が出てくるので、専門員としてきっちり受け止め、地域と専門員と共に解決していきたいと思っています。



子どもからお年寄りまでみんなが参加できるグラウンドゴルフ大会

尼崎市社会福祉協議会
すぎもと よしき
杉本 善希さん

Personal History

- 23歳 尼崎市社協に入局(ホームヘルプサービスのコーディネーターを担当)
- 30歳 住宅改造助成制度の相談担当
- 35歳 大庄支部事務局の担当
- 39歳 地域福祉活動専門員



取材を終えて

一人ひとりの思いに寄り添って、地域の人々と一緒に考えること。ワーカーとしての原点をとても大切にされているなと感じました。

※1 市社協は6つの支部と74の社会福祉連絡協議会連協で構成されています。さらに、地域の自治会や町内会が、社協の一部である単位福祉協議会(単協)として活動しています。
※2 社協各支部に配置され、地域の問題解決に向けた活動を推進する専門員

寄付・寄贈のお礼

このたび、本会等へ以下の寄付・寄贈をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

近畿陸運協会からの寄付

2月22日、近畿陸運協会より本会に70万円が寄付された。同協会による寄付は、今年で27回目(前身の大阪陸運協会を含む)を迎える。寄付金は、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンなど、県内の地域福祉の推進を目的にさまざまな事業展開に役立ていく予定だ。



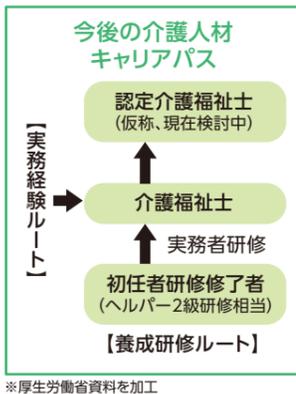
(株)ツルハホールディングス、クラシエホールディングス(株)による寄贈

2月28日、ツルハホールディングス、クラシエホールディングス両社から、本会へ車椅子5台が寄贈された。店舗を展開している地域の役に立ちたいとの思いから、平成12年より各地区の社会福祉協議会へ車椅子の寄

介護人材養成の 新体系始まる

介護職員の養成体系が4月から変更となる。これは、平成22年度の「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」(厚生労働省)による、「今後の介護人材のキャリアパスを簡素でわかりやすいものにする」ともに、介護の世界で生涯働き続けることができるという展望を持つべく、ようにする必要がある」との提言を受けたもの。

現行の介護保険制度においては、介護福祉士に至る養成体系は複雑で、介護職員基礎研修やホームヘルパー研修など複数の養成研修が混在していた。今回、介護職員基礎研修とヘルパー1級研修が介護福祉士の受験要件の一つである「実務者研修」に一本化され、ヘルパー2級研修が「介護職員初任者研修」(修了者

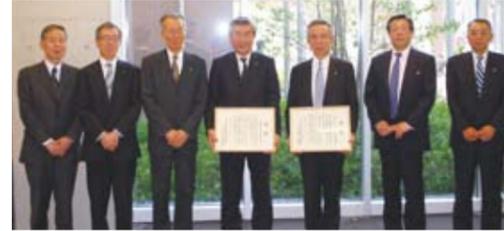


贈を行って。本会を通じ、西宮市社協・香美町社協に車椅子の寄贈を行った。



(株)大正銀行・岡三アセット マネジメント(株)による寄贈

大正銀行、岡三アセットマネジメントの両社では、「大阪・兵庫応援外国債券オープンファン」の運用益の一部を社協に寄付を行う社会貢献活動を展開している。3月8日に贈呈式を開催し、本会を通じ、神戸市社協、伊丹市社協にプロジェクト・プラズマクラスター等の物品が寄贈された。寄贈された物品は、高齢者福祉のために活用される。



は実務者研修の科目を免除に移行することで、養成体系が一本の線につながるようになる。

まちづくり基本方針 を改定

兵庫県では、人口減少社会の本格到来や、東日本大震災の影響による防災対策などへの関心の高まりを受け、今後のまちづくりの基本的な考え方や施策の方向性を示すため、平成19年7月に改定した「まちづくり基本方針」の見直しを行い発表した。同方針は、平成11年3月に全国で初めて制定された「まちづくり基本条例」に基づくもの。兵庫県を4つの地域に類型化し、それぞれの地域の「懸念される事態」めざすべき将来像」とともに、各地域の重点プロジェクト(左表参照)が提示されている。

地域ごとの重点プロジェクト

- 多自然地域の集落群...「絆」による暮らし再生プロジェクト
- 地方都市...個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト
- 郊外住宅地...住民主体のニュータウン再生プロジェクト
- 都市中心部...心よこ都市ブランド構築プロジェクト

※基本方針の詳細は、県ホームページで閲覧可能
http://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20_000000002.html

24時間テレビによる 福祉車両の贈呈

2月19日、24時間テレビによる福祉車両贈呈式が行われ、県社協の推薦により贈呈を受けた県内5団体を代表し、西宮市社協の障害者地域活動拠点「青葉園」に車両が贈呈された。



同贈呈式は同テレビへの募金を活用し、福祉施設などの利用者の外出を支援する目的で行われ、今回で35回目を迎える。

ポップサーカス神戸公演に 施設利用者を招待

神戸新聞社及びポップサーカスでは、主催する「ポップサーカス神戸公演」の無料招待券を、県内の児童養護施設、高齢者および障害者関係施設の協議会を介して福祉施設利用者に



へ贈呈した。2月26日の贈呈式では、神戸新聞社より目録が渡され、本会の武田会長が感謝状を贈呈した。

琴欧洲関が 保育所を訪問!



2月25日、大相撲の大関琴欧洲関が神戸市内のみのり保育園、神戸真生塾を訪問した。この訪問は、大関の神戸後援会の協力により実現したもので、当日は、園内ホールに特製の土俵が用意され、園児らがグループで順番に大関と相撲を取ったあと、大関に「好きな食べ物？」などの質問を交えるなど交流を楽しんだ。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

近畿のゆるキャラも集合!

近畿ブロック大会20周年記念大会 in 兵庫 (平成25年2月2~3日開催)

社団法人日本社会福祉士の兵庫県支部として誕生した本会は、7月に設立20年を迎えました(一般社団法人としては、平成21年4月からスタート)。20年経って「成人」になった私たちは、新しいスタートを切ります。新しい生涯研修制度の導入、生涯研修センターの設置、成年後見人としての質の向上といった取り組みの中、より質の高い専門性を身につけて県民の皆様の暮らしを守り、支えていく活動をしていきます。



連絡先
一般社団法人 兵庫県社会福祉士会
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1
兵庫県福祉センター 5階
☎078-265-1330 FAX078-265-1340
E-Mail syadanhyogo@hacsw.or.jp

自己研さんとネットワークで地域生活を支援! 一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

一般社団法人兵庫県社会福祉士会は、「社会福祉士」の職能団体です。社会福祉士は、1986年に「社会福祉士および介護福祉士法」という法律が成立したことで生まれた社会福祉全般に関わる国家資格です。1993年に任意団体として設立され、2009年に一般社団法人となり、1,410人の会員がいます(平成25年2月末現在)。「社会福祉って?」とよく言われますが、これは「人が住みなれた地域で、その人らしく生きて暮らしていくために必要なことすべて」といえます。人が生きていく上で、必要としていること、大切にしていることはさまざまです。一人一人が大切にしていることを守るため、私たちは自己研さんを積んでいます。そして、医療・保健・教育・司法行政等のさまざまな関係機関の専門職と力を合わせ、福祉を必要とする方が、地域で安心した生活を送れるよう支援しています。

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。
お問い合わせ先
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

